

水道をひく仕事 村がいつのころからどのように水道の仕事をすすめてきたのかを調べてみると昭和29年、大谷部落にかんい水道を作ったのが最初です。当時は自然のわき水を生活のために水として使っていました。

年	おもなことから
昭和二十九 昭和三十四 昭和五十四 昭和五十七 昭和五十九 昭和六十 平成元 平成三	<ul style="list-style-type: none"> <li>。大谷かんい水道ができた。</li> <li>。荻野かんい水道ができた。</li> <li>。本村給水施設ができた。</li> <li>。三方給水施設ができた。</li> <li>。地割給水施設ができた。</li> <li>。塔ノ窪給水施設ができた。</li> <li>。揚津かんい水道ができた。</li> <li>。清水利田給水施設ができた。</li> <li>。大芦給水施設ができた。</li> </ul>
平成三	<ul style="list-style-type: none"> <li>。高郷かんい水道ができた。</li> </ul>
平成三 平成四 平成五 平成七	<ul style="list-style-type: none"> <li>。一町新田給水施設創設</li> <li>。早坂新田給水施設創設</li> <li>。立岩新田給水施設創設</li> <li>。黄わだ給水施設創設</li> <li>。滝下利田給水施設創設</li> </ul>

水道施設事業のあゆみと今後の計画

生活のしかたがかわるにつれて水の量が足りなくなり、水道をひくことになりました。その後、昭和34年に荻野かんい水道、昭和54年に本村給水施設ができ、次々に他の地区にも水道がひかれるようになりました。

水道を広げる計画 村では、地形などとの関係で、1か所に大きな浄水場を作ることができません。そこで村内にはたくさんの施設が作られ、現在、4つのかんい水道と6つの給水施設があります。さらに、平成7年までには5つの給水施設が完成するように計画が立てられ、工事がすすめられています。

▼水道をひく工事

